

会 議 録

1 会議名

令和3年度 第6回大潟区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

・報告事項（公開）

（1）大潟区地域協議会委員視察について

（2）鵜の浜人魚館における市及び指定管理者の収支状況、指定管理の更新方針について

・協議事項（公開）

（1）自主的審議事項

「大潟健康スポーツプラザ鵜の浜人魚館の利活用促進について」

・その他（公開）

3 開催日時

令和3年10月28日（木）午後6時30分から午後8時35分まで

4 開催場所

大潟コミュニティプラザ 2階 大会議室

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・委員：五十嵐郁代、金澤信夫、君波豊（会長）、佐藤忠治（副会長）新保輝松、関清、土屋郁夫、中野幹根、濁川清夏、俵木一松、俵木晴之、細井雅明、山岸敏幸（14名中13名出席）

・行政改革推進課：手塚課長

・施設経営管理室：青柳副室長、小関係長

・柿崎区総合事務所：滝澤産業グループ長、玉井班長

・鵜の浜人魚館：水澤支配人、小山施設長

- ・事務局：大潟区総合事務所 熊木所長、柳澤次長（総務・地域振興グループ長兼務）、平野市民生活・福祉グループ長、渡邊教育・文化グループ長、岩片班長、水澤主任（以下グループ長はG長と表記）

8 発言の内容（要旨）

【柳澤次長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告。

【君波豊会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：新保輝松委員に依頼

【君波豊会長】

それでは、報告事項（1）大潟区地域協議会委員視察について説明してもらう。

【岩片班長】

既に開催案内を送付している。前回、視察先等についてご協議いただき、いくつかの候補が出たが、会長、副会長と協議をして、キューピットバレイの指定管理をしているスマイルリゾートの話聞き、施設見学をさせていただき日程を組んだ。本日、視察研修の資料を配付したので、ご覧いただき当日にご持参いただきたい。

【君波豊会長】

意見、質問はあるか。

【関清委員】

そこを選んだ理由は何か。

【君波豊会長】

前回の地域協議会で、候補地としてお話させていただいた。株式会社スマイルリゾートは、素晴らしい形でキューピットバレイを運営されている。我々が取り組んでいる自主的審議事項の参考になればいいとの思いで選定した。

【佐藤忠治副会長】

前回、吉川区のゆっつりの郷も候補としていたが、2つの場所を回ると時間的に厳しいため1か所のみとした。

【君波豊会長】

他に質問等はあるか。

(一同なし)

次に報告事項(2)「鵜の浜人魚館における市及び指定管理者の収支状況、指定管理の更新方針について」に入る。市施設経営管理室及び行政改革推進課から説明してもらう。

【青柳副室長】

まず当室担当者から、お配りした資料を基に鵜の浜人魚館の令和2年度の状況、指定管理者の収支状況、管理する第三セクターの経営状況について説明し、その後、現時点での次年度以降の指定管理更新の方針案を説明する。最後に、行政改革推進課から、今後の施設の方向性の考え方や進め方などについて説明する。

【小関係長】

資料No.1-1、1-2により説明。

【手塚課長】

昨年度に策定した、第4次公の施設の適正配置計画について説明する。大潟区では鵜の浜人魚館が公の施設の適正配置計画で「引き続き協議」としており、昨年度の地域協議会で説明した。今後、地域協議会、地域住民の皆様と協議を重ね、ご意見をお聞きしながら今後の施設の方向性を決めていきたいと考えている。今ほど施設経営管理室からも説明があったが、当該施設については今年度で指定管理が終了する。次期、指定管理期間を3年とする更新作業を進めており、今後、協議を進めるための一定の期間を確保した。協議の視点は、コロナ禍を見据えた利用動向、施設の老朽化、収支状況、また、施設が地域の中で果たしてきた役割、地域が一体となった施設の利活用等、地域の実情を踏まえながら施設の方向性を協議していきたいと考えている。また、施設の方向性が決まり次第、パブリックコメント制度を活用し、広く市民のご意見もいただきたい。地域のご意向を踏まえ、地域協議会をはじめ地域の各団体の皆様との意見交換の場を設けたいと考えているのでご理解、ご協力を賜りたい。

【君波豊会長】

ただ今の説明について、意見、質問はあるか。

【細井雅明委員】

令和元年度が1千万円、2年度が2千万円ほどの修繕費は、主にどんな修繕か。

【滝澤グループ長】

令和元年度は、ろ過材の入替え、冷温水発生器の部品取替えなどがあった。令和2年度は、ろ過器破損による水漏れ、それに伴いプールの電気設備にも水がかかり、多数の機器が故障してしまったことで修繕に多くの費用が掛かった。

【土屋郁夫委員】

資料No.1-1の4指定管理者の収支状況のその他の項目の内容は、具体的に何か。

【小関係長】

レストランの飲食等の収入である。

【土屋郁夫委員】

令和2年度は、利用者がかなり減ったということか。

【小関係長】

そうである。利用者が前年比46パーセントであり、それに伴っての減収である。

【山岸敏幸委員】

今後の施設の方向性ということで説明があった。現在、市長選が行われているが、それによって変わるということは考えられるのか。

【手塚課長】

この場でどうなるとは言えない部分もあるが、施設の今後の収支や老朽化の状況、利用者の状況、地域での建物の価値など様々な要素がある。そういう要素の中で適正配置計画では「引続き協議」、としている。つまり温浴8施設については、存廃について白紙の状態であり、今後の方向性について地域の皆さんと十分協議をしながら、丁寧に進めていきたいと考えている。

【濁川清夏委員】

指定管理者の選び方だが、ずっと随意契約である。入札にする考えはないのか。

【青柳副室長】

現時点では「引続き協議」であり、施設の方針自体も定まっていない状態であるため、これまで通り随意契約と考えている。ただ、今後については色々な方針の転換があるかと思うので、それに沿った形で進めていきたい。

【君波豊会長】

市の公費負担が、限りなくゼロに近ければ上手くいっていると評価できると思ってい

る。利用者数が9万人を割ると負担が大きいと思うが、施設経営管理室としてはどの程度の利用者を見込めばいいと考えているか。

【青柳副室長】

現時点ではコロナ禍の影響もあり難しいところがある。平成30年は、9万人を超える利用があった。公費負担を限りなくゼロに近づけるためには、10万人というのがひとつの目安になると思う。また、飲食等で1人あたりの単価を上げる取組みもあると思う。まずは目安として10万人くらいを目指すところかと思う。

【佐藤忠治副会長】

各区にある温浴施設を束ねているJーホールディングスは、人魚館に対してどのような指導をしているのか。それについて施設経営管理室はどう評価をしているのか。

【小関係長】

現在、市では1～2カ月に1回、Jーホールディングスや同社の経営会議、取締役会議で、施設の利用促進や経費削減についての提案をさせていただいている。一方で施設側としては、現場におり、そういった取組が難しい部分もある。そこが、うまくいっている施設とそうでない施設とがあるものと考えている。既に解散した三和区や安塚区の会社では、我々の指導も上手くいかなかったし、元々の経営状況も厳しかった。鵜の浜人魚館については、資料No.1-1の4指定管理者の収支状況をご覧いただきたい。直近ではコロナ禍の影響があるため一概には言えないが、利益が出ている状況にある。そういった面からすると、社長はじめ従業員の皆様からご苦勞していただき、経営の観点では評価ができると考えている。

【君波豊会長】

Jーホールディングスの話が出たが、これまで7社だったものが5社になった。9月12日付けの上越タイムスに非常に厳しい意見が掲載されていたが、今後、5社でやっていく上での考え等をお聞きしたい。

【小関係長】

当初7社、今は5社である。Jーホールディングスの決算についても、設立以来ずっと赤字であり、非常に厳しい状態である。市としては、この春から民間会社の方を社長に登用している。これまでの視点に加え、民間の視点を入れた中で経営改善を図っていきたいと考えている。併せて、正式決定ではないが、Jーホールディングスの中でも、

これまで手を付けられなかったような改革に手を付け始めている。その成果が必ずしも出るわけではないかもしれないが、市としてその動向を注視しながら、共に経営改善に向かっていく考えである。

【君波豊会長】

他に意見、質問はないか。

(一同無し)

以上で報告事項(2)を終了する。

(行政改革推進課退席)

施設経営管理室、柿崎区総合事務所については、この後の協議事項にも参加いただく。

次に、4協議事項の(1)自主的審議事項「大潟健康スポーツプラザ鵜の浜人魚館の利活用促進について」に移る。本日は、鵜の浜人魚館の水澤社長においでいただいた。水澤社長より「コロナ禍における営業の現状」と、「利用者増加に向けた今後の対応策等の方針」について、お話をいただき、その後質疑の時間を設ける。

【水澤社長】

コロナ禍における営業の現状について、配布資料「鵜の浜人魚館の月別入館者数の推移(R1~R3)」により説明。

今後の対応についてだが、昨年、上越市が第三セクターを見直し、民間の活用等の提案があった。その中で、サウンディング方式等、民間の資金力のあるところに手を上げていただき引き継いでもらうといった話があったかと思う。しかし、コロナ禍にあり進まずにここまできた。それを受けて、大潟区町内会長協議会が上越市に「人魚館は健康機能を備えており、耐用年数の期間は当面存続して欲しい。」と意見書をあげた。地域協議会からは、自主的審議事項として人魚館の利活用について取り上げていただき、7月下旬に施設の視察をしていただいた。地域の皆様から、人魚館に目を向けていただいている。現場を預かっている職員として、「このままではいけない。お客さんに来ていただくためにはどうしたらいいか。」と自分たちなりに考え、整理していこうと商工会、地元町内会の皆様と話し合う機会を設け、それを元に職員からもアイデアを出してもらっている。すぐに方向性が出るわけではないが、時間をかけて取り組み、生き残っていける方法を考えていきたい。人魚館には応援隊があり、これまではイベント開催時に声をかけて参加してもらっており、名簿上は300人ほどいる。これまでは無料で名簿だけの

応援隊となっていたが、有料化をして人魚館に寄与する組織を作れないかという協議を始めた。また、人魚館は面積が広い。草刈りの面積も広いのだが、ボランティアを募集して、職員と共に作業できないかを考えている。大潟区内には優秀な企業がある。企業の福利厚生施設として活用を考えていただけないかについても進めていきたい。そのほかに、人魚館独自のお土産を考案しながらPRに繋げていく案も出ている。利用者に喜んでいただける新たなイベントも考えていきたい。大潟水と森公園のイベントに合わせて、イベント終了後に入浴、食事をしていただく流れを作れないか検討している。これまでPRがうまくいっていない面があったが、インターネット、館内掲示、チラシ配布等を経費とのバランスを考えて取り組みたい。レストランについては、メニューが少ないと言われている。季節を利用したもの、県外客に向けたメニューを取り入れていきたい。その他にも、利用料金に応じて次に使える割引券の配布も検討している。すべてを実行するのは大変であるが、今後精査しながら、ひとつひとつ取り組んでいきたい。

鵜の浜人魚館は指定管理料が高いと言われている。3,500万円を市からいただいている。しかし、人魚館は入湯税、ガス、水道、下水道料金を納めており、通常の年であると合計金額が3,500万円を上回る。その辺りを含めてイメージしていただきたい。光熱水費の中のガスについては、大潟区と帝国石油とは歴史的な関りがあって都市ガスを入れていただいたと感じている。他の燃料と比べて割高ではあるが、そういった歴史的な事情もご理解いただきたい。

【君波豊会長】

質問、意見はあるか。

【山岸敏幸委員】

話を聞いて、我々も自主的審議事項の中で何かできる気がした。今後の取組で、応援隊が300人程度いるとのことであったが、応援隊の状況についてお聞かせ願いたい。

【水澤社長】

今は、名前をあげていただいているだけである。イベント開催時にお声がけさせていただいているのが現状である。自らの意思で少し会費を納入いただいた方が盛り上がるのではないかという思いもあり、内部で提案している。

【山岸敏幸委員】

是非そうしていただきたい。サポーター制度、オーナー制度などを視野に入れること

もひとつの方法である。

【佐藤忠治副会長】

応援隊に加入しているが、応援隊になると利用料割引があったのではないか。

【水澤社長】

飲食の部分で、応援隊のカードの提示により1割引となる。

【佐藤忠治副会長】

入館料は該当ではないのか。

【水澤社長】

そちらは難しい。

【佐藤忠治副会長】

市から出ているシニアパスポートと同額であり、そちらばかり提示している。応援隊会長の名前は知っているが、役員は知らない。総会等もないため実態が分からない。

【五十嵐郁代委員】

話の中で、私たちにもできることがあると感じた。お金のことに関しての手助けはできないが、人的なこと、仕組み作りはお手伝いできると思った。先ほど「無料ボランティアを募って」という話があったが、例えばその仕組みや体制づくりのアイデアを地域協議会でも出せるのではないか。私が仕事で関わっているしおさいの里では、無償ボランティアに行くとスタンプを押してもらえ、それが貯まると手作りの小物等が頂ける。先ほど無料登録の応援隊があるとの話があったが、そういった方にも草刈りや清掃に積極的に関わっていただける仕組みを作り、代わりに自主事業の際に割引するとか、アイスクリームを50円引きますなどのアイデアを、人魚館の皆さんと一緒に考えていくのがいいのではないか。また、地域にはいろいろな団体があるので、そういった団体が企画や運営に積極的に意見を出す仕組みや体制を作り、開催されるといいと思った。

【濁川清夏委員】

公園が広く草刈等が大変であるとのことだが、その公園を集客に繋げるアイデアを考えてもらうといいのではないか。また、大湊水と森公園のイベントと関連を作り集客に取り組む考えがあるが、PRのためのチラシ作成等にお金がかかるとの話であった。そこはもう少し考えようがあるのではないか。それと、レストランのメニューがあまりにも少ないということだが、どのくらい同じものでやっているのか分からないが、目玉に

なるようなものを考えてもらった方がいい。7月に視察に行ったとき、七夕飾りやドイツの体操チームのことに触れるようなものが何もなかった。もう少し意欲的にやっていただきたいと感じた。

【水澤社長】

七夕については、まちづくり大潟所有の七夕飾りを大広間に飾った。

【濁川清夏委員】

七夕が終わってからでなくその時期に飾って、子どもたちから短冊を書いてもらうなどの姿勢をみせていただきたい。毎年、変化がない。

【関清委員】

「住民の健康増進を担う施設であり、そのためにはコロナからも守るという体制をきちんとやっているのだから恐れずに来ていただきたい。」というPRがなかった。聞く話によると、高齢者はコロナ感染を心配してプールに行くことを家族に止められるという。飲食店等では、コロナ対策をしているという張り紙をしているところもある。温泉やプールで泳ぐことは免疫機能を高めてくれる。プールで感染したという事例もあまり聞かないので、風評被害もあると思う。それを具体的なところで反撃していくことが必要である。また、地場産業として大潟区住民との接点を増やしていく姿勢が必要である。人魚館だけでなく、鶴の浜温泉全体が豊かな自然の中にあるという特徴をどう作っていくか。私はそのために必要な肉体的な労による参加を拒まないつもりである。そういうものを作っていく過程の中に「私も一緒に参加している。」という近さを感じてもらえるのではないか。

【土屋郁夫委員】

今ほど「大潟」という話があったが、我々にできることもたくさんあると思う。ただし、1人が何回も利用できないので、人口数からすると大潟区だけにこだわってはいけない。他から来ていただく施策、そのためには他施設との競争になるので経営側が他施設を視察するなどして、大潟区の特徴を打ち出していきたい。そのためにアイデアを出すことは、地域協議会や地域の皆さんに協力してもらえるとと思う。協力者としての大潟区民はいいと思うが、来ていただく人は大潟区の人だけではないという考えを持っていただきたい。

【関清委員】

小中学校の水や水泳に対する教育はどうなのか。そういった部分でもいろいろなアイデアを使ってプールを活用していければいいと思う。

【山岸敏幸委員】

今は、新型コロナウイルスも落ち着いてきている。地域協議会で人魚館の利活用を議論する前段として、委員が人魚館で食事や宴会をすればいいと思う。素晴らしいソーシャルディスタンスを保っているし、感染症対策としては、この辺りではどこにもないことをしていることを皆さんに確認をしてほしい。そうすることで、私たちが発信していかなければ利活用はできない。批判するだけではなく、どうやったら人魚館を活用できるかが自主的審議事項として重要な部分である。委員の人魚館利用を早めに検討していただきたい。

【君波豊会長】

山岸委員に誤解していただきたくないのだが、自主的審議事項としてこれから協議していくことは、人魚館を実際に運営している水澤社長以下従業員の方たちと同じ気持ちにならないといけない。

【山岸敏幸委員】

そうである。

【君波豊会長】

その点だけははっきりさせておきたい。これまでも、新年祝賀会等で利用してきたし、個人的にも職場の仲間と忘新年会等で利用してきた。そういったことをこれから広げていくということをお互いにやっていく必要があると思っている。その皮切りに、コロナが落ち着いた後、我々が利用して皆さんに発信できればいいと思う。

【金澤信夫委員】

プールを活用することのウエイトが高いと考える。プールがある温浴施設は、うみてらす名立と鵜の浜人魚館だけである。プールを活用して子どもたちが利用すれば、親も来るし、飲食の利用もある。もう少し、プール活用に取り組んでいただきたい。施設の老朽化が進み、年々修繕費が嵩んでいく中で、プールの設備も欠けているものがあると聞いている。むこう3年でも、5年でも修繕計画を作り老朽化対策をしながら、施設の維持管理を考え活用していただきたい。

【細井雅明委員】

シニアパスポートは、かなり安く利用できる。その分は、市からの補てんがあるのか。

【水澤社長】

補てんはある。

【細井雅明委員】

利用率はどの程度か。

【水澤社長】

今日は資料を持ち合わせていないが、多くの利用がある。

【関清委員】

日々、人魚館のことを考えている。飲食関係で、調理場が狭いという話があった。美味しい食事を提供して、レストランの利用が増えてほしいと思う。そのために調理場改修の予算要求をすとか、改革するとかをやってもいいのではないか。ぎりぎりまで人件費を削っているのだから、拡大戦略で行ってもいいと思う。私は、プールの話しかできないが、ジャグジーなどの休止はいつまで続くのか。

【水澤社長】

昨年、プールをかなり休館した。新型コロナは第6波の話も出ているし、可能な限りプール営業を続けていくための手立てとして皆さんにご迷惑をかけているわけである。いつまでとは、この場ではお答えできない。

【関清委員】

B & Gのプールと全く違うところは、懇親コミュニティを作る場であることだ。競技として自分を鍛えるだけでなく、利用者同士が仲良くなり友人を作る場になっている。最後に気泡が出る設備や寝湯を利用し、温まりながら会話をし、コミュニティを作っている。通常のプールとは違った利用のされ方をしている。その場を取ってしまったことは、その特徴を生かし切れていない。利用者は戻ってきているが、来なくなった人もいるのが寂しい。泳ぎが上手くなるために来ているのではなく、健康になりたいために来ている。そこで友達になり、会話をし、楽しんで過ごすというのが現状である。

【新保輝松委員】

「大潟健康スポーツプラザ鵜の浜人魚館」という名称は設立当初から変わっていないのか。

【水澤社長】

変わっていない。

【新保輝松委員】

作られた当初は、健康器具等が設置されていて、運動の後に温泉に入るということであったと思うが、器具等が利用されなくて撤去された気がする。今、プール以外で健康教室等はあるのか。

【水澤社長】

ヨガ教室、トランポリンなどいろいろやっている。

【佐藤忠治副会長】

原油を掘るときに温泉が出て、それが町に寄付され、共同浴場から発展してきた。今年、開湯何周年になるのか。

【水澤社長】

鵜の浜温泉は、少し前に60周年を迎えた。

【佐藤忠治副会長】

開湯何周年目にあたるなど、温泉のイメージを館内に表示できないか。

【関清委員】

所有している車の活用方法を検討してほしい。動く広告になる。

【土屋郁夫委員】

市も委託しているとはいえ、健康、スポーツという切り口でいい施設があるということを知らせてほしい。コロナの影響を防ぎつつ、きちんと運営していることをもっと知らしめて欲しい。施設側もウェブ等に出しているが、ひとつだけよりも、いろいろなどころからの情報を目にしたり、耳にしたりした方がより施設の良さが分かる。私は、上越教育大学の学生に「スポーツもできるし、温泉もあるし、キャンプ場もあるし、すごくいい地域なので土日は遊びに来て。」というPRができればいいと考えている。

【君波豊会長】

水澤社長の話も聞き、皆さんから意見交換もしていただいた。休憩後、自主的審議事項について協議を進める。

(鵜の浜人魚館、施設経営管理室、柿崎区総合事務所退席)

～休会～

【君波豊会長】

再開する。これまでの議論を踏まえ、今後の進め方を議論したい。非常に広い範囲の草刈りをされているので、ボランティアを募りたいと話があった。前期の自主的審議事項で、観光協会に提出した意見書の中にも「広くボランティアを募って、人的な部分を補うことを遠慮なくやったらどうか。」ということに記載した。大学生や高校生を対象にボランティアを募って海岸清掃等を実施したらどうかといったことを提言したつもりである。こういったことならすぐ実施できそうである。大潟区の住民が盛り上がることによって、市民全体にその空気が伝われば、人魚館がこの先長く存続するのではないかと。まず、盛り上がりを作ることが大事である。

【佐藤忠治副会長】

1月4日に高田区地域協議会を傍聴してきた。高田区は、「高田の活性化」と「人口減少」の2つのテーマで自主的審議事項を行っている。開会するとすぐに2班に分かれて、2つのテーマの審議を同時に行っていた。地域協議会の時に2、3班に分けて協議し、その結果を持ち寄って協議するのはどうか。地域協議会開催とは別に協議の場を設けるのは大変である。

【土屋郁夫委員】

市議会か何かのイベントで、班ごとに分かれ、模造紙に意見を書き出していき、最後に書いた人が発表していくという手法があった。やってみる価値はあると思う。

【君波豊会長】

大潟区の魅力発見・発信でDVDを作成した時に経験がある。

【佐藤忠治副会長】

創造行政研究所職員に来ていただき、その方法で協議した。五十嵐郁代委員もファシリテーターの経験がある。

【五十嵐郁代委員】

まちづくり市民大学では、すべてその方式をとっている。私は、毎回そのまとめを行っていた。分科会で分かれて協議するのはいいと思うが、分け方によっては方向が違ってしまふ。分け方は、委員が揃っているところで精査すべきと思う。今ほど出た意見は、運営そのものについて、外部の人について等でまとまりつつあると思う。その中で、委員それぞれが関心のあるところに集まって、班を作るのも方法である。例えば、プール、

温泉、活用方法、ボランティア、食に関してなどが挙がっていた。そういった分野ごとに分けるのはどうか。

【君波豊会長】

そういった方法もあるが、とくに班ごとのテーマを決めず、「鵜の浜人魚館の利活用について」というテーマそのもので2班に分かれて協議する方法もある。

【五十嵐郁代委員】

2班に分けて、ざっくりと話し合いをしていき、その中からさらに分けるという方法もある。

【君波豊会長】

地域協議会だよりの編集委員は4班に分かれている。

【山岸敏幸委員】

それでもいい。

【五十嵐郁代委員】

それでもいいが、2、3班がいいのではないかと。

【君波豊会長】

今後、グループ討議をしていくということでもいいかと。

(一同了承)

本日の協議はここまでとする。その他に入る。委員から連絡事項等はあるか。

(一同無し)

私からお聞きする。海岸砂防林の雪の被害と生態をドローンで調査をしていると思うが、被害が拡大している松くい虫についても調査されるのか。

【柳澤次長】

県の調査であり、詳しいことまではわからない。

【君波豊会長】

事務局から連絡事項はあるか。

【柳澤次長】

大湊地域協議会委員の視察研修を11月10日に実施する。第7回地域協議会を11月25日(木)午後6時30分から開催する予定である。

【佐藤忠治副会長】

会議の閉会を宣言

9 問合せ先

大潟区総合事務所 総務・地域振興グループ TEL : 025-534-2111 (内線 201、216)

E-mail : ogata-soumu.g@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。